

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590400075		
法人名	社会福祉法人 徳栄会		
事業所名	グループホーム さくら坂		
所在地	宮崎県日南市大字楠原1797番地1		
自己評価作成日	令和2年12月12日	評価結果市町村受理日	令和3年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和3年1月14日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者一人ひとりのその人らしさを尊重すると共に家族や地域との繋がりを大切に、安心できる馴染みの環境の中での生活が継続できるよう支援します。」を理念とし、出来る限り制限を設けない支援を実施させていただいております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の祭りや行事に参加するなど、地域と交流するよう取り組んでいる。また、利用者が自宅と変わらない環境で過ごせるように、できるだけ制限のない環境を提供するよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員より理念を収集し掲げさせていただき共有しており、全職員の理念理解に努めている。	毎月の職員会議で理念について共有し、職員主導で意見を出し合い年に1回見直しを行っている。玄関の入り口に理念を掲げ、職員がいつでも確認できるようにし、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス禍により、地域との付き合いは、減少しているが、地域の人々の差し入れ等があり、多少の付き合いをさせていただいている。	地域開催の祭りで、獅子舞に来てもらい地域の方との触れ合いを持ったり、近所の方が作った野菜の差し入れがあるなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症サポーター養成講座等に協力する事で、認知症のある人の理解や支援を地域の人々に知っていただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス禍の影響により、運営推進会議を開催出来ないでいる。	運営推進会議では、自治体の役員から地域の情報(祭りや行事など)を収集し、施設で行うイベントに生かしている。また、出席した家族からの意見や要望をサービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	感染症の影響で運営推進会議ができない状況にあるが、外部の意見交換の場として重要であるため、既存の会議とは違う会議のあり方を模索することに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かある都度、市の担当者である介護保険課に連絡し、助言、指導、確認を行う事により、協力関係を築くよう取り組ませていただいている。	市の長寿介護課担当者と連絡を取り合い、施設の取組について相談や報告を行い、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より、夜間の防犯対策以外での施錠する事は行わず、解放する事により、行動抑制をしないようにさせていただいている。また、身体拘束についても実施した経緯は現在のところない状況です。	施設の方針として、行動の抑制や玄関の施錠をしないように努めている。また、職員には、入社時に当施設の身体拘束に対する方針を伝え、身体拘束をしないケアに努めている。。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修実施及び虐待防止研修会に参加させていただき、受講職員と共に研修内容を振り返り、全職員で確認を行う事で防止に努めさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業及び成年後見人制度について特に学ぶ機会はないが、一人の利用者様が成年後見制度を利用されている為、成年後見制度について多少の知識は得られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を使用しての口頭説明を実施し、疑問点及び不明点の解消の為、利用者及び家族の意見を聞くと同時に確認を行っていた事で理解・納得を図らせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設及び面会時や連絡時に、利用者様及び家族よりの意見・要望を聞くようにし出来る範囲内での対応を行わせていただいている。	運営推進会議の開催の際に、家族から施設に関する意見や要望を聞くようにしている。また、通院時に来られた家族とコミュニケーションを取るようにして、色々な意見を聞いて運営に反映させようと取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時に職員よりの意見を収集する事により、できる範囲で反映させていただいている。	管理者が出席して行う職員会議を月に1回行い、主に行事食や入浴介助・排泄介助の個人別対応の状況などについて、話し合い、そこで出た意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康状態、家族構成、勤務状況より、ワークライフバランスが出来るだけ、取れるよう勤務表及び就労時間帯等を考慮させていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講については、職員の希望により、研修を選択していただいているが、新型コロナウイルスにより、極めて少ない状況である。内部研修実施により、職員の資質の向上を図らせていただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内及び他事業所や同職種の事業所との意見交換や地域情勢の情報を交換を行い、ネットワークづくりを行わせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様に対して、本人様の不安を軽減し精神状態を安定させる為、声掛け、目配り、気配りを重点的に実施させていただきながら、他利用者との関係づくりも促進させていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用者様の家族に対して、意向の確認、要望の確認、家族の可能な対応について確認を行い安心して生活できるよう、考慮させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の心身機能の状態、病状、家族の意向を考慮し、居宅療養管理指導、福祉用具貸与等も検討させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者様が出来るであろう事を共に行っていただいたり、物事について利用者様と一緒に思考させていただくことにより、職員と利用者様の関係を構築させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が家族と切り離されない距離や苦痛に感じない状況を維持できるようにさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、新型コロナウイルスの為、面会制限中であり、家族のみの面会となっている。	施設での面会制限は行っていない。出郷へのドライブや知人を訪問するなどして、入所以前の間人関係を切らないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性及び距離を考慮しながら、時には間に入り、時には静観し、利用者様同士の関係性が維持できるようにさせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の本人様及び家族の状況・状態を確認する事がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様のスタイル、リズムに目を向け、本人様とコミュニケーションの中で意向の把握に努めさせていただいております。	ケアプラン変更の前に、指定アセスメント内容に沿って各自の情報を収集して、本人の思いや希望を把握し、次のプランに反映させるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の歴史やスタイルを担当しているケアマネジャーや家族より情報収集し、サービス利用経緯等の把握に努めさせていただいております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス利用までの、暮らしについて家族及びケアマネジャーより情報収集する事と、実際のサービス内での状態を確認する事で、現状の把握に努めさせていただいております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の心身機能の状態、病状を課題とし、できることを維持し、生活できるような支援計画をチームで検討している。	毎月1回のモニタリングを実施し、現在の介護サービスが本人・家族の希望に沿ったものか確認している。また、本人・家族が満足しているかをプランの変更時に確認するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の関わりについて記録しており、記録した事を職員間での情報共有を生かし、支援に反映させていただいております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状態変化時、本人様を含め家族の状況も考慮し、その場面に応じた柔軟な対応をさせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ある程度、他事業所及び地域内の資源を把握をしているものの、新型コロナウイルス過による影響もあり、協働できていない状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、在宅や従来のかかりつけ医を維持していただきながら、窓口を施設とし、受診困難な利用者様や緊急時には施設で対応する事とさせていただいております。	利用者が、入所前に診てもらっていた主治医を継続して利用できるようにして、納得いく医療を受けられるよう受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をし、状態確認、状況報告、相談、意見の交換を実施させていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人様の状態及び家族の支援状況を考慮し、施設を窓口とし、家族と医療との仲介等を行いながら、連携を図っており、入院時には、情報提供を、退院時には、情報供与を行わせていただいております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対し地域医療の現状説明を実施させていただいております。重度化時の方針について、話し合いを実施させていただいております。また、状態変化時に家族とその時々々の状態に応じた方針について話し合いを実施させていただいております。	看取りに関しては、主治医・訪問看護と連携して対応している。看取り時のケアについては、家族と随時状況を確認しながら支援に努めている。また、職員の不安を解消する為に、夜間帯でも随時施設長と連絡が取れるようにしている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、救急救命講習に参加させていただき訓練しております。事故発生時には、マニュアルに沿った連絡、報告を行うものとし、状況に応じ訪問看護の連携も実施させていただいております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会に災害発生時の協力体制と応援要請するものとし、定期的に避難訓練を実施している。また、市の危機管理課と連携させていただいている。	火災訓練を年に2回法人全体で行っている。地震訓練は年2回施設イベントの中で行っている。3日間の備蓄をするなど災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者様の性格やプライバシーに沿った声掛けを実施させていただいているが、時折、馴れ合いの声掛けが見られる事があります。	会議や研修で、個人の尊厳やプライバシーについて話し、職員の意識の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、各利用者の希望と意向を聞かせていただけるように話を傾聴させていただいております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者様のスタイル、リズム、想いを考慮し、その時々状況に合わせた対応を心掛けさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に始まり、ネイル、着替えの洗濯等実施、理美容を実施させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のコミュニケーションにおいて、食べ物嗜好を把握し、味付け、準備、片付け等を利用者様と共に実施させていただいております。	誕生会やイベントの時に、利用者の好みの食事を提供するようにしている。また、利用者と一緒に買い物に行くときは、その利用者の好みの食事に合わせて買い物し献立をたてるなど食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・カロリーの維持の為、栄養補助食品の利用を検討させていただく事もあります。一日の水分摂取量の目標を1000mlとし摂取量の把握をする事や、嚥下状態を確認しながら、トロミ剤の使用を検討させていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔清潔の声掛け・見守り・誘導を実施させていただいております。		

宮崎県日南市 グループホーム「さくら坂」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の心身の状態に応じた排泄を考慮させていただいており、出来るだけ、トイレでの排泄の維持を考慮しながら、支援させていただいております。	排せつの自立支援の勉強会は、定期ではなく問題が生じた時に随時行い、即対応するようにしている。また、声掛けや誘導により排せつの自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況による、医師との連携を図りながら、水分摂取量の目標を1000mlとし、個々の身体状況に応じた予防に取り組ませていただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望及び職員の声掛けにて、毎日、入浴を提供出来る環境を整えさせていただいております。	入浴は、基本的毎日入るようにしており曜日の設定はしていない。入浴を拒む場合は、タイミングを変えてアプローチしている。また、好みのシャンプーやリンス・石鹸を使うなど入浴楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の心身状態を考慮しながら、それぞれ利用者様のリズムで、休憩や睡眠をとっていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設側で管理させていただいており、服薬時に職員間で確認し服薬していただくようにしております。また、医師、訪問看護、薬剤師との連携を図ることにより、用法や用量についての理解を促すようにさせていただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルスにより、外出等の制限が掛かっており、利用者様の望む楽しみごとや気分転換の機会が減少している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスにより、外出等の制限を設けさせていただいている為、日常的な外出は、受診等時のみとなっている。	本人の馴染みの場所や墓参りなど、記憶に残っているところをドライブしたり、全体では季節ごとのイベントを行い、サクラや紅葉見学など外出支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望、本人様の希望により、お小遣い程度のお金を預かり、必要品や本人様の希望に沿って使用していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話にての家族とのコミュニケーションをとっていただいている。手紙のやり取りに関しては代読等により、やり取りができるよう、支援させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾以外は、余計な飾り物をせず、必要最小限に留めさせていただいている。また、照明器具もモダン調であり光も柔らかくしてある。ソファを置くことや、畳のスペースが有る事で、くつろげる環境を提供させていただいている。	室温や換気に配慮し、季節の花を飾るなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースで横になられたり、ソファにて利用者様同士で談話されている。座席位置を特定しないことにより、利用者様同士の交流を促進させていただいており、その時々で利用者様に自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込む物についても、特に制限は設けていない。本人様が使い慣れた物や思い出の物を持って来ていただいている。	自宅で使用していた馴染みの家具などを持ち込み、自宅と変わらない雰囲気でも過ごせるようにしている。また、居室はホールを囲んで設置されているため、利用者が集いやすくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関口は階段、スロープの両方を設置させていただいている。施設内外共にバリアフリー化により、安全面に配慮している。掲示・表示については、必要最小限にさせていただき、利用者様自身で確認できる様に支援させていただいている。		